

起案用紙（委員会記録伺）

(1号)

議長	委員長	事務局長	局長補佐	係長	担当	合議	文書取扱主任
起案日	令和7年4月3日			処理区分	<input type="checkbox"/> 重要 <input type="checkbox"/> 至急 <input type="checkbox"/> 例規 <input type="checkbox"/> 公示 <input type="checkbox"/> 議案 <input type="checkbox"/> 秘		
決裁日	令和7年4月4日			保 存	<input type="checkbox"/> 永 <input checked="" type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 即廃		
登録番号	7四議第95号			公 開		非公開理由	
分類番号	04-02-02			<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 時限非公開（ 公開）		四万十市情報公開条例第9条に該当 （ ）	
簿冊番号	04 - 04						
委員会名	産業建設常任委員会			会議年月日	令和7年3月18日（火）		
				会議時間	10時59分～11時40分		
出席委員	委員長	山下幸子					
	副委員長	寺尾真吾					
	委員	宮崎努					
	委員	西尾祐佐					
	委員	大西友亮		欠席委員			
	委員	鳥谷恵生					
その他	委員外議員	松浦伸		委員外議員 川村真生			
	委員外議員	前田和哉					
執行部出席者	まちづくり課長	佐川徳和					
	まちづくり課長補佐	津野智宏					
	上下水道課長	池田哲也					
	上下水道課長補佐	岡村速人					
	上下水道課水道係長	近藤大吾					
事務局	事務局長	原 憲一					
	事務局長補佐	岡村むつみ					
記 録							
令和7年12月定例会で付託された議案1件及び陳情1件の審査のため、委員会を開催しました。							
その概要については以下のとおりです。							

■委員長挨拶により開会。

●まず、付託を受けた「第33号議案 四万十市道路線の廃止について」審査を行った。

【説明：佐川まちづくり課長】

蕨岡地区にある当該路線は、昭和61年に市道認定しているが、区域決定及び供用開始することなく、現在に至っている。市道認定されたままでは、農道としての補助事業が採択されないことから、認定の廃止を求める要望が、今回、地区から出された。この要望に関して、隣接地権者及び耕作者全員の同意が、確認できたことから、市道認定を廃止するもの。

【質疑：大西委員】

場所はどこか。

【答弁：佐川まちづくり課長】

蕨岡の内川地区である。

【質疑：西尾委員】

農道になったら補助事業ができるのか。

【答弁：佐川まちづくり課長】

その心配があったが、地区において、導入可能な交付金があることを所管課に確認している。

※他に質疑なく終了。

採決の結果、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決した。

●次に、陳情受理番号第1-2号「指定避難所の生活水確保について（陳情）」の陳情項目2.〈平野配水池の水を大規模災害に備え、市道馬越平野線まで別バイパスを引くなど大規模災害時に活用できるよう機能の変更を行うことについて〉、審査を行った。なお、市長宛に出された要望書の内容が本陳情と同様のものであり、執行部からは既に回答書を送付しているため、その内容及び現状について所管である上下水道課から説明いただいた。

【説明：池田上下水道課長】

令和6年12月2日付の市長への要望書については、同年12月26日付で文書により次のとおり回答している。

平野配水池は、平成12年度に建設され、配水池から旧下田中学校構内に設置している耐震性貯水槽までの配水管は、平成13年度から平成14年度に耐震適合管を布設し、耐震化している。このため、大規模災害時には、下田地区耐震性貯水槽は、平野配水池から水の供給が可能となっており、現状では別バイパス等による機能の変更は必要ない状況であるが、平野配水池の水源である百笑水源から、平野配水池までの管路の耐震化が、完了していないため、今後も基幹管路の耐震化に継続して取り組んでいく。

【説明：岡村上下水道課長補佐】

①施設について説明。平成12年度に建設した平野配水池は松野山山頂付近にあり、ステンレス製で容量は450^m³、耐震性を有している。また、旧下田中学校にある平成26年度に建設された下田地区耐震性貯水槽は、ステンレス製で容量は60^m³、耐震性を有している。人が1人1日生きていくうえで必要となる水量は3^lであるが、この下田地区耐震性貯水槽には、6,000人を想定し、発災時において3日間生きていくために必要な水量を確保している。

②現在の耐震管の敷設状況について説明。今後耐震化工事を要する管路は、約4.5km残っている。下田地区の平野配水池から旧下田中学校に向けては耐震化ができているため、担当課としては、百笑水源の主要になる送水管を耐震化し、その後、佐岡橋から井沢方面に向けて耐震化を進める計画として、耐震化を急ぐこととしている。

【質疑：鳥谷委員】

①送水管の耐震化が終わる時期は。

②費用はどのくらいかかるのか。

【答弁：岡村上下水道課長補佐】

①現在、上水道施設の耐震化計画で耐震化を進めている。百笑地区の送水管については、令和9年度末を目指して工事を進めている。その後、佐岡橋からの4.5kmについて、年間1kmずつ進めていきたいが、国費の要望もあり、7～8年にかかるのではないかと考えている。

②事業費は概算で20万円/mかかる予定で、9億円近くかかる見込みである。

【質疑：宮崎委員】

平野配水池から下田方面に排水する分と平野・双海の方に排水する分について。水の循環はどうなっているのか。

【答弁：岡村上下水道課長補佐】

平野配水池から下田に降りていく水は、この耐震性貯水槽を通過していく。タンクに水を貯めておくと水質が悪化するので、流れを出すためにこの耐震性貯水槽を通過して、下田地区に配るようにしている。

【質疑：宮崎委員】

平野配水池の給水範囲で、給水人口600人に対して水の使用料400 tとなると、98%の水はどこに行くのか。

【答弁：岡村上下水道課長補佐】

3 lの水というのは大規模災害時の飲料水のことである。日常の生活水は平野の配水池にある450 tで、下田・平野・双海で約350 tから450 tの間で1日の使用量を賄っている。このため、1日1回は平野配水池の水が循環する形を取っている。

【質疑：宮崎委員】

地震があった時に、平野配水池は遮断されるのか。

【答弁：岡村上下水道課長補佐】

耐震性貯水槽から、菅が下流（下田）側で破断すると、水が一気に流れ出る心配があるが、耐震性貯水槽の上部に水が出て行く管を配置しており、そのタンクの水位が下がってくると下田へ降りる管の方に空間ができるため、水が溜まって自動で止まる仕組みになっている。

【意見：宮崎委員】

400 t近い水が平野配水池にあって、水が流れ出す前にそこでストップすると。それに加えて60 tの水が絶対下田にあるということで、水だけの話であれば、全く問題ないレベルで耐震性貯水槽の中に水があるため、何の対策が必要なのかがわからない。現段階で地震が起きても、下田地区の人がどうしても水に困るという状況には思えない。

— 小休 —

— 正会 —

【質疑：寺尾副委員長】

他の地域にも耐震性貯水槽を置いているのか。

【答弁：岡村上下水道課長補佐】

旧上水道地区では下田にあるような耐震性貯水槽を8基備えている。平成16年度から平成30年度にかけて、岡ノ下公園・古津賀第2団地・中村小学校（地下式）・下田中学校・具同小学校・竹島防災コミュニティセンター・武道館・具同体育センターに整備している。また、耐震性貯水槽ではないが、八束の方には配水池を構えており、地震の際には保育所があるところで使用できるようになっている。また、中山間地域については、小規模の耐震性貯水槽を9基設置するよう、予算計上している。

【質疑：大西委員】

馬越から平野に上がる部分かと思うが、これは今後工事をする部分か。

【答弁：岡村上下水道課長補佐】

今後の整備計画に載せて行う予定である。

【意見：大西委員】

陳情書全体を見ると、大災害に備えて命の水を守ってほしいという部分には賛同できる。

【意見：宮崎委員】

下田地区耐震性貯水槽には、発災時等に必要となる水量以上の水が確保できるため、現段階で別バイパスを引く必要はないと考える。

— 小休 —

— 正会 —

※審査終了。

採決の結果、賛成少数で、不採択すべきものと決した。

■委員長報告の作成を正副委員長に一任し、委員会を終了した。